

研究計画書

ゼミ名	石田ゼミ	チーム名	ちーボラ
タイトル	中央銀行の金融政策は市場のボラティリティにどのように影響するか？		
テーマ群	a) 理論・情報 b) 財政・金融		
メンバー	竹田翔哉、金地治都、呉嘉承		
研究計画内容	<p><b>【研究背景】</b></p> <p>金融市場において、日本銀行の金融政策は重要な役割を果たしている。特に、短期金利の調節等の伝統的金融政策や、長期金利の調整や量的緩和・引き締めといった非伝統的な政策は、投資家の期待や市場の安定性に大きな影響を与えることが知られている。そこで、本研究では、日本銀行の金融政策が株式市場のボラティリティ（変動性）にどのような影響を与えるのかを分析し、政策の有効性や市場への影響を考察していく。また、ボラティリティは投資家にとってリスクを凶るうえで重要な指標であり、金融市場の健全性を測る要素でもあるため、株式市場のボラティリティは投資家のリスク管理や資産配分の決定に大きな影響を及ぼし、また、ボラティリティが高まると市場の不安定性が増し、経済全体に悪影響を与えることが指摘されている。そこで、日本銀行の政策決定が市場に与える影響を正確に理解することで、投資家はより適切な投資判断を行い、政策立案者は市場の安定性を維持するための有効な政策を立てることが可能となるのではないかとこの点を明らかにしていきたい。</p> <p><b>【研究内容】</b></p> <p>まず、日本銀行の金融政策と金融市場のボラティリティに関する先行研究を整理し、どのような理論的枠組みが存在するかを検討する。この分野では、GARCH モデルを用いた分析が多く研究で行われているため、その手法について詳細に調査する。次に、市場データ、国内外の長短金利を使用して実証分析を行い、このデータに基づいて時系列回帰、GARCH モデルといった手法を用いて日本銀行の金融政策が株式市場のボラティリティに与える影響を分析する。そして、日本銀行の政策変更が短期的に株式市場のボラティリティを大きく変動させるのかを調べ、政策金利変更が市場に与える影響のメカニズムを解明する。また、量的緩和や量的引き締めが、経済状況や市場環境に応じてボラティリティを抑制したり、逆に不安定化させたりする要因になるのかも調べる。</p> <p><b>【期待される効果】</b></p> <p>日本銀行の金融政策が市場の安定性にどのような影響を与えるかを明らかにすることで、金融市場に関する理解を深めることができると考える。また、政策変更時のボラティリティの変化を正確に予測することで、株式市場のリスク管理や投資戦略の改善に貢献することが期待されると考えられる。</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>横内大介，青木義充(2014)『現場ですぐ使える時系列データ分析』技術評論社。          沖本竜義(2010)『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店。</p>		